

参加申込時に頂いたプルシナー教授への主な質問

頂いた質問は、できる限りそのまま掲載しておりますが、英語翻訳のため一部修正しております。

【v C J D 及びその感染リスクなどについて】

「異常プリオン」、「末梢神経での感染」、「ヒトへの感染」は、それぞれどこまで解明されたのか。

v C J D の感染予防として医学的にどのような対応が必要か。

スクレイピー原因説の正否について教えてください。

C J D 原因としてのプリオン評価であるが、その発生作用等から見た存在意義・理由は何か。

【SRM除去について】

ピッシング・スタンニングの汚染をどう考えるか。

【検査法について】

精肉などを最新の最高感度のテスト方法で検査する予定はあるのか。

扁桃（へんとう）に初期にあらわれたプリオンは中期では検出できないようだが、プリオンが体内で移動する可能性があるということか。

B S E 検査法の高感度技術の研究について教えてください。

生体牛の尿や血液を調べることにより異常プリオンを検出する技術の実用化についての見通しについて教えてください。

月齢 20 ヶ月と区切ることに意味があるのか。

20 ヶ月以下で検出限界以下だから未検査にして食用にするという理論についてどう考えますか。

全頭検査を必要とする理由を教えてください。（日本の現在の対策（全頭検査）の評価）

潜伏期間中の病原体の発見方法とその信頼性について教えてください。

【B S E 全般について】

現在世界で行われている対策の中で、リスクの大きさの観点からすると、食中毒リスクと対比した場合、B S E の感染リスクは食中毒での死の確率とどちらが高いと考えますか。

牛肉以外の畜肉（豚、鳥、羊）には、B S E のようなリスクは全くないと思えますか。すなわち牛肉だけが危険な食べ物との認識ですか。

牛が一生涯 B S E に感染しない方法はありませんか。

（個人的な意見として）検査キットによりあげられる利益を得ているという事実を認められた上で、プリオン研究の第一人者として、B S E サーベイランス、

プリオン拡散防止、食品安全確保の上で必要かつ十分な措置は何であるのかを日本と米国それぞれについてはっきりと教えてください。

日本で発見された21、23月齢のBSE発生は世界的に見て今までのBSEと認知されているのですか。

病原体の潜伏期間はどの位か。また、20ヶ月未満の牛が潜伏期間中の病原体を持っていた場合と現在のSRMの除去部分以外の関連部位からの発生の可能性が皆無か(国内14頭目)を教えてください。

日本国内でBSEが自然発生する確率はどれくらいと思われますか。

【米国の管理措置の現状等について】

米国における飼料規制の現状及び、と畜解体時における危険部位除去の現状について教えてください。

BSE由来のvCJDが米国で発生する確率はどれくらいか。

米国のBSE対策の現状をどう評価しているか。また、現在行われている対策を続けると、将来(例えば50年後)はどのようなことになるか。

米国のBSE検査はサーベイランスを目的としているが、米国の現状からはスクリーニングとしての位置づけが必要ではないのか。

現在、飼料規制は牛の肉骨粉をブタ・ニワトリに与えてよいことになっている。交差汚染も含めて、感染牛が発生する可能性が常にあると思われませんが、アメリカにおける感染牛発生の可能性と感染者(vCJD)の存在について教えてください。

【米国産牛肉輸入解禁について】

米国の畜産業者は日本輸出解禁についてどの程度意欲的なのか教えてください。

日米牛肉貿易問題についてどう捉えているか。

米国における20ヶ月齢判別法は、肉質確認以外にどういった方法を研究しているのでしょうか。

牛の月齢について、なぜアメリカは判定できないのか。牛の月齢とBSEの関係を教えてください。

【院内感染について】

血液、血液製剤による感染リスクの可能性はどのくらいあるのか。

日本では細菌・ウイルスレベルで内視鏡や歯科・手術での院内感染が問題になっている。日本の医療従事者に警告のメッセージを下さい。

【その他】

日本では「飼料問題に一切ふれずSRMを除去すれば安全だ」とWHOの勧告を無視し、ロビー活動する学者がいるかどうか。